

まち塾通信

平成 24 年度第 2 号

H24.12 発行

まちづくり塾は、「まちへの関心と愛着を高めるとともに、参加者同士の交流を深める」ことを主な目的として平成 12 年度から始め、よりたくさんの方に参加していただけるよう、毎年さまざまなテーマを設け開催しています。

今年的一般コースは、10月6日、10日、13日の3日間、「減災やコミュニティからのまちづくり」をテーマに開催し、26人の参加をいただきました。

「減災やコミュニティからのまちづくり」 全3回

講師：大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 渥美 公秀 氏



第1回 「地震被害を減らすには」

阪神・淡路大震災発生時のコンビニエンスストアの防犯ビデオに写った映像では、震度6強の地震により、棚が一瞬で倒れています。茨木市で起こると予想されている最大震度と同じです。

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋や家具の下敷きになり亡くなられた方がたくさんいます。当事者は亡くなっていますので、「住宅の耐震補強をしておけば」「家具等の固定をしておけば」「地震に対する準備をしておけば」などと言うこともできません。

亡くなられた6,400人を超える方の思いをどのように伝えていくかが大切です。神戸市に近い茨木市でも同じ事を起こさないようにするにはどのようにすれば良いのか考えてみてください。



被災地のリレー

阪神・淡路大震災直後の夏休みに青森県八戸市の方が支援のため西宮市を訪れ、子どもたちに地引き綱などを体験させるため八戸市まで連れて行ってくれました。今回は、東日本大震災で大変な状況だと聞き、私たちはまず交流のあった八戸市へ向かい、さらに被害の大きかった野田村へ南下しました。野田村では、現地事務所を民家の中庭を借りて設営し、ボランティアで訪れた学生たちの宿泊所としても利用しています。

新潟県小千谷市は、東日本大震災当日の夕方に、いち早く福島県からの避難者受け入れを決定し、市民に受け入れ先としての協力依頼を行いました。中越沖地震の際にいろいろな方にお世話になり、何かお返しをしたいと思っていたそうです。

全国から西宮へ、そして新潟、岩手へと災害救援活動が「被災地のリレー」となりつながったように、これからもその気持ちのリレーを続けたいと思っています。

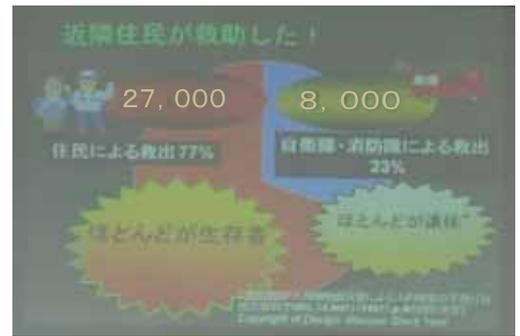
気持ち



隣近所の救出活動

阪神・淡路大震災では、約 35,000 人が生き埋めになり、救出された方の 77%は、隣近所の方に助けられたそうです。地域や隣近所の方による救出活動がいかに大切かが分かります。まずは生き埋めにならないこと、そして、隣近所でどのように助け合えば良いかを考えることが大切です。

さらに、障がい者や高齢者など自分の身を自分で守れない方もいることを普段から意識してください。



キーワードは「いつも防災」です。

防災を日常生活の中に埋め込む方法を一緒に考えましょう。」

さまざまな状況を設定し、

「備えておくべきもの」(買っておくべき物など)と

「備えておくべき事」(人間関係など)を

グループワークで考えてください。

<グループワークの状況>

1班

電池(規格を揃えておく)

家族との連絡方法

建物の耐震化

2班

風呂の水を溜めておく

眼鏡

家族の集合場所を決めておく

持ち出し袋の点検



家具の転倒防止

薬



テント

ろうそく

ラジオ(1台だけでは駄目)

想定外のことを知っておく

固定観念を捨てる

障がい者や老人の住んでいる場所を知っておく

印鑑

自主防災組織

3班

カセットコンロ

軍手

4班

救急救命訓練に参加

防災ハンドブック

ラップ



新聞紙

笛

ゴミ袋



運動靴

避難場所の確認

家の定期的なメンテナンス

近所づきあい

高いところに物を置かない

水

自治会への積極的参加

～まとめの話～

理解していることをいかに活用できるかが課題です。

食料の蓄えはもちろん必要ですが、夏場は食べ物が腐りやすいので、震災が起こる季節や状況についても普段から考えておく必要があります。ただし、備えておくべきものは、いろいろな状況を考えるときりがありませんので、まずは基本的なものを備えておけば良いでしょう。



- 電池
使用できるかどうかを確認しておく。製品により使用する電池の規格が異なるので、いろいろな規格を揃えておく必要があります。
- ラジオ
家具等の下敷きになり潰れる恐れがあります。複数台用意しておくことを薦めます。
- 笛
倒壊家屋などの下敷きになった場合、笛を鳴らすと第三者に見つけてもらいやすいため、携帯電話や車の鍵に付けておくことを薦めます。
- 靴
新しい靴だと足が疲れやすいため、履き慣れた靴を置いておきます。
- カセットコンロ
普段から友人などを家に招いて、鍋料理などでカセットコンロの使い方を体験しておくと同時に、燃料を少し買い置きすると良いでしょう。
- 印鑑・通帳
印鑑と通帳は別の場所に保管し、キャッシュカードは身につけてください。着の身、着のまま逃げても何とかありますが、現金を金融機関から引き出す場合に時間がかかります。
- 食料の保存
前日のご飯を残しておく、贈り物のお菓子等を保存するなど、日頃から少し多めに食料品を買っておきます。
- 生活用水
飲料水をペットボトルなどに保存しておきます。
水が古くなった場合は、花の水やりにも使えます。
- 風呂の残り湯を溜めておく
小さい子どもやお年寄りがいるご家庭は、溺れる可能性があるため、臨機応変に対応してください。
- 連絡方法
携帯電話は通話ができなくなります。阪神・淡路大震災では公衆電話が使用できなくなりました。家族で集合場所を決めておきましょう。
- 自主防災組織など
たくさんの方に参加してもらうには、楽しい行事や魅力的なことがある自主防災組織にすることが大切です。



第2回 「イザ地震！あなたはどうする？」

大地震発生直後から、どのような行動をとるかを考えます。生き残っても避難所で亡くなる方もいます。避難所に何もなく、避難者がカーテンを体に巻き付け、寒さをしのいだ例もあります。避難所生活を続けると、だんだんストレスも溜まります。

阪神・淡路大震災発生後に避難所となった西宮市内の小学校の事例を挙げると、

- 避難所に約 1,200 人が避難し、約 1,200 個のおにぎりが届きましたが、届いたときには、避難者が約 1,600 人に増えていたため、優先的に高齢者や子どもたちに配付しました。
避難所のリーダーは、遠方から運ばれてくる食べ物などに対して、食中毒などの二次被害の発生を防ぐことに必死でした。
- 地域のソフトボール部の監督が指揮を執り、中学生が避難者の人数を数え、個人情報に気を付けて名簿を作りました。
- 小学校は子どもたちの教育施設であり、全ての教室を使用すると授業再開の妨げになるため、学校にどのような教室があり、どの教室を使用すれば良いかも考える必要があります。
- 寒さをしのぐため焚き火をしていましたが、材料が不足したため避難されている倒壊家屋所有者の了解を得て、柱をチェーンソーで切り調達しました。
- 2週間後に避難者集会を行い、これからは自分たちで風呂焚き、夜回りや朝食の配付などの役割分担の話し合いをしました。
- 3週間後に、キャンプ用のテントで着替えルームを設営しました。
- 1か月後に、銭湯が再開したため、仮設の風呂を撤去しました。
- 小学校の卒業式では、子どもたちへの感謝の気持ちとして、避難者が新聞の折り込み広告で紙吹雪をつくり祝福しました。

大地震発生後から

3 時間まで

3 日まで

3 週間まで

3 か月まで

にどのような行動をとるか、想像力を働かせ、各班で話し合ってください。



～まとめの話～

3時間まで

- 消火作業
消火器の準備が必要です。
- 安否確認
通勤や通学などで家族の誰かが市外にいる可能性があります。
- 情報収集
テレビやラジオでは、大阪府などの広域情報は放送されても、茨木市の情報は得られません。
- 情報発信
阪神・淡路大震災時は、携帯電話を持っている人が少数でしたが、今はインターネットやSNS等で発信できます。
- 部屋の割当
施設の収容可能人数を把握する必要があります。

3日まで

- 不平・不満が出てくる。
- トイレの数が不足するなどの問題が発生します。
- 個人情報
自治会に入っていない人や、日頃非協力的な人も避難所に来ます。
- ルールづくり
誰かがつくってくれると考えている人が多いようです。
ルールは、約3週間後に見直しが必要です。

3週間まで

- 限界やピーク
ストレスがたまり、気が立ってくる時期です。
- 物資の仕分け
配給券を配ります。
- 格差への不平不満
避難所内の自分の居場所がどこになるかなどで不平不満が出ます。

3か月まで

- 自立への取り組みが始まります。
- 被災地に残るか、別の土地に移り住むか、地元出身の人と茨木市内へ嫁いできた人など男女で考え方が異なります。
- 相談業務
ローンがあれば制度により何百万円も不利益を被る可能性があるため、早く弁護士に相談してください。

避難所の生活をイメージすることが一番大切です。
正しい解（正解）はなく、自分たちの地域で成り立つ解（成解）を考えてください。
また、ボランティアの受け入れ、役所やメディアとの対応を誰が行うのかなども、話し合っておく必要があります。





第3回 「学んだことを地域で広げよう」

今日は、2日間を通して学んだことを、自分の地域に帰って、どのようにして広げるのかについて考えてください。

いつも防災

道路を掃除している人に普段から挨拶をして知り合いになれば、震災が発生した際に助けてもらえる。いつも行っていることが防災につながります。

釜石の奇跡

東日本大震災の津波が発生したとき、釜石市の中学生が小学生を誘い高台に逃げたため、ほぼ全員が助かりました。群馬大学の片田先生が「想定に捕らわれるな」、「最善を尽くせ」、「率先して避難せよ」の避難3原則を唱え、釜石市の小中学生に徹底的に避難することを教え、日頃から何度も避難訓練をしていました。

地域での防災訓練になぜ人が来ないのか、来てもらうためにはどのようにすれば良いのか考えましょう。

- 阪神・淡路大震災では生き埋めになった人の77%の方が隣近所の人に救出されました。隣近所の人たちと避難訓練を行う必要があります。
- 地域で会長や副会長を決めて、「絶対参加」とするのではなく、良い意味でふざけた、楽しいアイデアで実施することが大切です。
- 「自分の身は自分で守る」を本人の決意として持つのは良いのですが、地域の障がい者や高齢者など、自分で身を守れない方もいます。
- リーフレットを配れば人が来るわけではありません。自宅に呼びかけに行っても不審者に疑われます。

それではどのようにすればよいか。日常生活に埋め込まれた防災を考えましょう。

- 春の花見に防災を取り入れる。
- 夏祭りに防災を取り入れる。
- 秋の運動会に防災を取り入れる。借り物競走の借り物を防災グッズにする。
- 防災、防災としつこく言わない。



楽しい防災学習を行いましょ。地域に命令系統がないと嘆いていても防災学習は進みません。人が集まらない現実を見て、すべきことを考えましょ。

地域で行われている面白いことや、改善できることを、グループワークで考えてください。

～グループワークの状況～

担架を使った
搬送ゲーム

ヘリの救助
デモ

避難所体験会

地域の会合で
防災の啓発

野球、サッカー
等の地区チーム
で掃除

A E D訓練

子ども主体
の防災訓練



バケツリレー

保存食を食べる会

けむり体験

防災ポスターを子どもに
作ってもらう

自治会加入者以外
にも防災関係資料
や情報を提供

子どもとの日常会話

～各班発表～

1班



2班



3班



現状あるものの改良型

・・・ふるさとまつり、盆踊り等で防災ゲーム

新たな取り組み型

・・・通報訓練

両者を兼ねるもの

・・・研修の伝達

キーワードは「子ども」

・・・夏祭り、体育祭

日常での取り組み

・・・子ども見守り隊

定期的な取り組み

・・・消火栓、機具点検

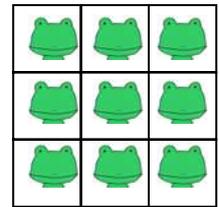
～まとめの話～

今日のワークショップが一番難しいです。

いろいろな地域で様々な工夫が行われており、全国の事例をまとめたものはありませんが、地域でまとめて発信すると良いと思います。

- 運動会に防災を取り入れることがよく言われますが、なかなか実行されていません。
- 夏祭り、学校の運動会や地域の体育祭で、昼食に非常食を食べます。
- 人の重さと同じカエルのぬいぐるみを、カーテンを使用し、運びます。
- 見守り隊は、ユニフォームの管理が大切です。似たユニフォームを作成し悪用する人がいますので、番号を付けるなどで管理しています。
- キャンプ行事に防災を取り入れます。

- 避難所になる建物内で宿泊する「避難所体験会」は、良い経験になります。着替えるコーナーがない、水が思ったより少ない、トイレの数が足りないなど困ることが分かります。非常持ち出し袋を持参して実際に使い方を確かめます。
- 防災マニュアルの勉強会を実施するだけでなく、自分や隣近所のあの人はどのようにするだろうと考えます。
- マップづくり
自分なら誰を誘い、どのように逃げ、どこに集まるかを考えます。
- わが街再発見！防災探検隊
子どもたちに突撃インタビューシートを渡し、情報や写真を集め、模造紙に貼ると街の地図ができます。また、半日作業のため、昼食に非常食を食べることもできます。子どものために親が防災無線や防災倉庫など事前に準備をします。子どものためなら一生懸命になり、防災訓練とは気付かずに参加しています。
- イザ！カエルキャラバン
夏祭り会場の一角で、水消火器を使ったカエルの的当てゲームを行います。子どもたちは高得点を取ろうとがんばり、お父さんは子どもに消火器の使い方を教えるため、お父さんの消火器訓練にもなります。
人形劇では、とぼけたカエルのお父さんとしっかり者のおたまじゃくしが登場し、子どもが笑うようなだじゃれを盛り込み、地震に備え、何を準備すれば良いかを教えます。子どもを連れてきたお母さんに非常持ち出し袋の中身を教えることになります。
- 5 mの津波の高さを実感するため、5 mの高さから流しそうめんを行ったところもあります。



全国には、工夫したいろいろな防災訓練があります。少し工夫するだけで楽しい防災訓練になりますので、みなさんも地域で試してください。

～ 3日間のまとめ～

「防災と言わない防災」

防災は命に関わることです。防災に対する意識を日常生活の中に組み込んでください。防災や減災を学ばれるときに、正解はありません。少し見方を変え、イメージをつかんでください。

行政の情報も使い、みんなが楽しく参加できる事を地域に広めてください。また、良い事例があれば、次の防災訓練で取り入れてください。



発行・編集 茨木市 都市整備部 まちづくり支援課
〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
茨木市役所南館5階
電話：072-620-1802 FAX：072-620-1730
E-mail：machidukuri@city.ibaraki.lg.jp